

# 英霊にこたえる会 たより

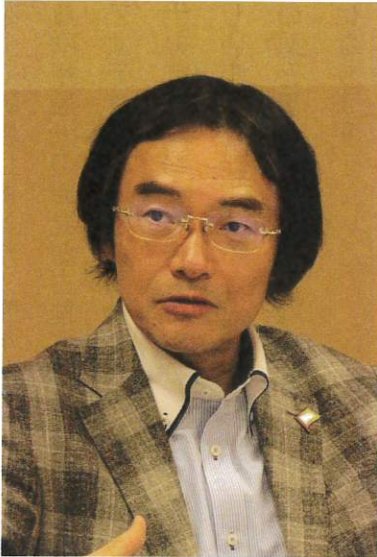
英霊にこたえる会  
102-0073 東京都千代田区  
九段北 3-1-1  
靖国神社遊就館内  
電話・FAX  
03-3261-7415  
メールアドレス  
eirei@deluxe.ocn.ne.jp

靖国神社への総理及び閣僚の  
公式参拝を定着させ  
天皇・皇后両陛下の行幸啓を  
仰ぎましょう

## なぜこのままでは

## 「日本が危うい」のか

作家・ジャーナリスト 門田隆将



門田隆将氏

「親愛なる日本の皆さん、そして平和を大切に  
する世界の皆さん。私は「人影の石」となる  
危機に陥った国からやって来ました」

五月二十一日、G7の終わりにウクライナ  
のゼレンスキー大統領は日本人に、いや世界  
の人々全員に向かって、記者会見でこう語り  
かけた。「人影の石」とは、原爆の強烈な熱線  
によって石の表面に残った影のことである。  
常にプーチンによる核威嚇に晒（さら）され  
ているウクライナから来たという意味である。  
「人類には戦争によって多くの命が失われ  
てきた歴史があります。人間が人間を「死な  
せてきた」のです。今、ウクライナは破滅的

な戦争の中心にあります。侵略者はウクライ  
ナ人を支配下に置くだけでなく、ウクライナ  
人そのものが存在しないと世界に嘘をついて  
いる。ウクライナ人が勇敢でなければ、ウク  
ライナがあつた地には「人影の石」だけが残つ  
ていたかもしれないのです」  
敵がウクライナに使っている武器は核兵器  
ではない、と断わりながら、氏はこう続けた。  
「焼き尽くされたウクライナの街は原爆資料  
館を訪れた時に見た広島の写真に似ています。  
数万人のウクライナ人がいた街に残るのは灰  
と瓦礫だけなのです。  
今の広島は見事に再建されました。私たち  
が夢見ているのは、ウクライナの再生です。  
そのためには、まず「領土奪還」が夢なのです。  
北方を奪還したのと同じように東、そして南  
の領土も奪還したい。ロシアは文明的なもの

を全て破壊しました。昨年から、わが国にある欧州最大の原発が占拠されています。ロシアはテロ国家です。原発を盾にしてウクライナの町を攻撃するのもロシア。こうした恐ろしい犯罪を無視することはできない。ロシアの悪と愚かさに対処しない限り、世界が廃虚になります。

我々は、ロシアが世界最後の侵略国になるようにしなければなりません。自分たちのために、子供のために、孫のために、平和がほしい。『人影の石』が資料館で見ることができなくなるように」

素晴らしいスピーチだった。広島サミットは、本来はオンライン参加のはずだったゼレンスキー氏がマクロン仏大統領に頼み込み、フランスの政府専用機で訪問先のサウジアラビアから直接、乗り込んでくるという快挙によって、歴史的なG7となった。

戦時下の大統領が命がけて「支援」を求めた姿を、自由世界は息を吞んで見つめたのである。これによって、専制国家による「力による現状変更」を自由主義圏が結束して阻止

する「意志」が世界に示された意義は計り知れない。

### 首を傾げるG7までの道程

だが、礼讃一色の広島サミットまでの「道程」に疑問を呈せざるを得ないのも事実だ。

この会議への過程で、日本はどれほど多くのものを失っただろうか。ここでは、敢（あ）えて韓国問題とLGBT問題に絞って触れておきたい。

G7の二週間前、五月七日に岸田首相は訪韓し、真つ先にソウルの国立墓地・顕忠院（けんちゅういん）に出向き、参拝した。親日派というレッテルが貼られればここに葬られることは許されず、今も死者の「親日派探し」がつづく象徴的な場所である。かつて新潟日赤センター爆破未遂事件の犯人も葬られている。いわば「反日の牙城」だ。

周知のように岸田首相は靖國神社には参拝しない政治家だ。靖國は、説明するまでもなくペリー来航以来の国事殉難者



「G7各国の国旗」と「ウクライナ国旗」





竹島

二百四十六万六千人の御霊（みたま）を祀る神社である。子孫も残さず、国のために命を落とした若者が数多く祀られている。中国と韓国の「戦争犯罪人を礼讃する施設」との誤った攻撃に対し、多くの政治家や識者が真実の情報を発信してきた。

だが、岸田首相はその政治家を横目に、四年八か月も外務大臣という日本の外交の最前線にいながら、一度もその運動の先頭に立つたことがない政治家だ。その岸田氏が靖國には参拝しないのに反日の牙城にはお参りし、頭（こうべ）を垂（た）れる神経はどこから来ているのか。

案の定、この訪韓で日本領・竹島の韓国による不当占拠やレーダー照射事件への事実究明と謝罪要求などに言及もせず、逆に自称・徴用工で実際には「応募工」だった人々に「心が痛む」と、言つてのけたのである。

ありもしない慰安婦の強制連行を三十年以上にわたって騒ぎ、世界中に慰安婦像を建て続ける韓国に抗議のひとつもしない土下座外交によって、

安倍晋三首相時代の対韓「戦略的放置」策は完全に捨て去られたのである。

これで韓国との真の友好は逆に遠ざかった。戦略的放置によって韓国民に日本の怒りの理由に目を向けさせ、歴史の真実を知ってもらうという目的は、安倍氏の死とともに完全に消えたのである。

「ここまで譲歩する必要があるのか」、「日本の誇りはどうなった?」、「そうまでして韓国利権に与（あず）かりたいのか」……G7を前にして、日本の保守・現実派からそんな声が湧き起こったのも当然だろう。

### あり得ないLGBT法への執着

さらにひどかったのがLGBT理解増進法をめぐる動きである。首相秘書官の言葉を毎日新聞がオフレコ破りして始まった騒動。岸田首相は、これをきっかけに「G7までにLGBT法成立」へ向け、一挙に突き進んだ。

首相の背中を押したのが、いや、「指示を与えた」とされるのがエマニュエル米駐日大使

である。この騒動をきっかけにアメリカの有名なLGBT活動家を来日させ、首相のみならず与野党の有力議員たちに引き合わせ、自らも断続的に国会議員を大使館に呼び、「オルグ」していったのである。ついには岸田首相の裕子夫人までホワイトハウスに招聘（しょうへい）してこの問題への意識を高めさせていく作戦を採った。

宗教的理由から同性愛が長く禁じられ、同性愛に死刑さえ定められていた「ソドミー法」を持ち、現在も同性愛者への迫害や事件が絶えない諸外国に比べ、そのような差別が存在せず、テレビ界でも同性愛者はスターとして活躍してきた日本。そもそもの「立法事実」がない日本で、岸田首相はこの問題にこだわった。首相は法案成立に向け、茂木敏充幹事長に指示を出し、茂木氏はその日のうちに萩生田光一政調会長と遠藤利明総務会長と面会し、法案の進め方について協議したとされる。

女性活躍担当の森まさこ総理補佐官は新たにLGBT問題の担当を命じられ、政府の要職にあるという自覚もなくLGBTの「レイ

ンボーデモ」にエマニュエル大使と共に参加するというあり得ない行動までとった。

しかし、「私は女」と自称する身体男性が女子トイレや更衣室、女風呂などの女性専用スペースに入り込んで女性と女兒の「命と人権」を脅かす危険性のある法案に、自党内の保守・現実派は、敢然と反対の意見を貫いた。党幹部や部会の執行部たちの締めつけにも関わらず、四月二十八日、五月八日、十日、

十二日と、計四回の自民合同会議で白熱した議論を展開し、四回の会議で反対意見は計五十八、賛成意見は計三十一で、反対派が圧倒したのである。

だが、部会の執行部は自ら作成のLGBT理解増進法の修正案に対して「部会長一任」を強行。党の政策審議会を経て総務会も通過させ、国会に上程したのである。

法律さえ通れば、基本方針の検討会議がスタートし、ここに活動家が集（つど）い、彼らがつくる「支援団体」の補助に多額の予算が投下されるようになる。推進の執行部の中には、活動家による組織や社団法人に理事や

顧問として名を連ねる政治家もおり、公金に群がるスキームを実現しようとする意欲が垣間見える。

議論の課程では、衆院法制局が「LGBTに特化した法律は、G7のどの国にも存在しない」ことを明らかにした。「G7の中で日本だけが遅れている」という理屈も「虚偽であること」が判明したのである。

またLGBT法成立に向け、「内政干渉」を続けるエマニュエル大使のお膝元・アメリカでは共和党の反対で日本のような法律が成立する見込みもない。実際に、G7ではLGBT問題はほとんど議論もなく、「LGBT差別禁止法がない日本がG7で糾弾される」との理屈は、まったくの虚偽だったことも判明している。

## 『反日亡国勢力』の真の狙い

多くの保守・現実派が懸念するように、LGBT法の次に予定されるのは「夫婦別姓」であり、「同性婚」である。エマニュエル大使



は「婚姻は両性の合意のみに基づいて成立する」との憲法第二十四条が存在するにもかかわらず、同性婚は憲法を改正せずとも「可能である」との支離滅裂な意見を披瀝（ひれき）公明党の山口那津男代表はそれを受けて「何としてもサミット前に理解増進法案の成立を図るべき」と言つてのけた。

日本では「家族」が社会の最小構成単位であることはいうまでもない。父と母、そして子供たちで構成される家族は戸籍に記載され、世界でほかに類例を見ない戸籍制度でこの最小の構成単位が守られている。

しかし、夫婦別姓になればどうなるか。家庭の中を想像していただきたい。父と母、そして兄弟姉妹がそれぞれ別の姓になり、家族の中で違う苗字の人間が混在する。

つまり、姓の異なる人間が「共同生活」を行なうことになる。日本のような精緻な「戸籍制度」が常識ある世界の人々の垂涎（すいぜん）の的であることをご存じだろうか。その世界に冠たる日本の「戸籍制度」は、夫婦別姓によって、根幹が揺るがされることになる。

しかし、同性婚を目指す勢力は、この戸籍制度が邪魔で仕方ない。LGBT理解増進法をきっかけに日本の戸籍制度が危機に瀕（ひん）していることがおわかりいただけるだろう。そして、その先にあるのは、「女系天皇実現」である。父系を遡（さかのぼ）れば神武天皇に辿りつくという皇統唯一の「男系ルール」が、「なぜ男系でなければならぬのか」という凄まじいキャンペーンが張られる未来図を保守・現実派の心ある人々は憂慮している。



先人の智慧（ちえ）で男系によって「権力」と「権威」を分離し、平清盛であろうと織田信長であろうと、また豊臣秀吉や徳川家康であろうと、時の権力者として自ら天皇となることを許さず、結果的に二千年をはるかに超える世界最古の王朝を維持してきた日本。これを破壊したくて仕方ない「反日亡国勢力」に情報弱者たちが踊らされ、やがて皇統は消え、将来、国際結婚によって中国系や韓国系などの天皇が誕生し、皇室自体が「日本から消えていく」ことになりかねないのである。

これら「日本」自体を守る防波堤となつていた安倍元首相の暗殺後、保守・現実層の拠りどころだった自民党は完全に切り崩された。あろうことか自民党はLGBT理解増進法なる稀代（きだい）の悪法成立に舵（かじ）を切つたのだ。このことが泉下（せんか）の安倍元首相をいかに嘆かせているか、想像に難くない。私は二〇二一年に『新・階級闘争論』（ワック新書）を上梓（じょうし）した。一九八九年のベルリンの壁崩壊で雪崩を打って消えていった東欧の独裁専制国家。長くつづいた資



本家（ブルジョアジー）と労働者（プロレタリアート）との戦いがついに決着し、「世界が自由と民主主義の時代を迎えた」と思ったものである。

だが、左派勢力は大きな階級闘争にこそ敗れたものの、今度は「小さな」階級闘争に生きる道を求めた。たとえば些細（ささい）なもので、そこにある「差異」をことさら強調することによって「差別の被害者」を生み出し、それに対する「不満」を利用して、本来はあり得ない一種の「階級闘争」を創り出していったのだ。

それは、性別、性の指向、人種、出身地、学歴、収入、門地……あらゆる分野に及ぶ。すべてが不満の材料にされ、自分自身が不利益、差別、理不尽な現象などの「被害者である」との認識を受けつけられ、気がつかないうちに社会への不満を高め、声高く抗議や疑問を叫ぶ側に位置づけられているのである。

「多様性」という言葉が絶対視され、長い時間をかけて日本人が培ってきた伝統や本来あるべき「人」としての価値観は風前の灯（と

もしび）となっている。二十世紀の一時期を席捲（せつけん）した「階級闘争」が新しく姿を変えて世界を覆ってきたのだ。その流れは容赦なく日本を呑み込みかかっているのである。

私は、この「新・階級闘争」が何を目指し、どう動いていくかを先の著書で描かせてもらった。残念なことに、刊行二年余を経て、悪夢の予測は現実化し、安倍元首相の死によって、これがさらに加速するという悪循環に陥っている。

ネットの SNS（交流サイト）は、これに抗する大きな手段だが、相手側も巧みにこれを利用して世論形成をはかっている。歴史上、存在しなかったこの「情報伝達手段」上で巻き起こっている「新しい革命」の正体を知り、これに踊らされることなく、彼らが志向する「全体主義」への道をいかにして阻むか。

本稿をご覧の皆さまには、そのことを心に刻み、先人が築き上げた素晴らしき「日本」を守っていただきたいと思う。

（了）





# 英靈にこたえる会 第六代会長に古庄幸一氏就任



古庄幸一新会長

## 古庄幸一新会長の略歴

昭和二十一年（一九四六年） 大分県生まれ  
 昭和四十四年（一九六九年） 防衛大学校第十三期生として卒業  
 海上自衛隊に入隊  
 平成九年（一九九七年） 練習艦隊司令官  
 平成十三年（二〇〇一年） 護衛艦隊司令官  
 平成十四年（二〇〇二年） 海上幕僚副長  
 平成十五年（二〇〇三年） 第二十六代海上幕僚長  
 平成十七年（二〇〇五年） 退官

国家基本問題研究所 理事  
 靖國神社 崇敬者総代  
 豊の国特命 かぼす大使

令和五年四月二十三日に実施した、英靈にこたえる会第四十九回総会において第六代会長に古庄幸一氏が就任した。

前会長の寺島泰三氏は名誉会長に、前副会長の藤田幸生氏は名誉顧問に就任した。

## 古庄会長就任挨拶

英靈にこたえる会 第六代会長に就任しました古庄幸一です。

戦後生まれの私が会長に就任しても良いのかと悩みましたが、現在の日本を取り巻く情勢に鑑み会長に就任させて頂くことと致しました。

会長就任にあたり、三つ考えました。

先ずは、「英霊顕彰」です。

先月、岸田総理は韓国を訪問した時に、韓国国立墓地顕忠院に献花・参拝しました。訪問国の計画で動くのが国際儀礼です。

今までは中国・韓国からの強烈な批判で、総理の靖國参拝は中断していました。今年からは堂々と靖國神社に参拝して、英靈にこたえていただきたいと思います。

二つ目は、「偽装国家からの脱皮」です。戦後教育により日本の伝統文化が壊され、憲法改正もできず、それが当たり前となっている日本。政府が国民を騙して八〇年が経ち、孫子三代に亘ります。

昨年十二月に決定された安全保障三文書で、政府はまた国民を騙しています。

この三文書では憲法改正に触れていません。予算と装備を今後五年間で充実しても何も変わりません。早く憲法を改正して、自分の国は自分で守るという意志と力を持った主権国家にならなければなりません。

三つ目は、「若い人達への教育」です。日本を愛し、家族を大切にす二千年の日本の貴重な伝統と文化国家日本を伝えていきたいということです。

会長に就任し、皆さんの力を十分に発揮できるように時代に合った方策を考えていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。



靖國  
國  
カ  
レ  
ン  
ダ  
ー

英霊にこたえる

一億国民のこころを結集しよう

昭和天皇御製  
降り積もる  
深雪に耐え  
色変へぬ  
松ぞ雄々しき  
人もかくあれ

皇太后陛下御歌  
皇皇に  
君と歩みし  
半生を  
見守りくれば  
親しき友ら

皇嗣殿下  
彼方此方を  
友と共  
行送り  
聞き初めしことに  
喜びありの

皇嗣妃殿下  
春風  
木の末目も  
圓みつつ  
えんと語る  
旅の思ひ出

今和五年歌会始御製御歌  
御題「友」  
御製  
コロナ禍に  
友と運器を  
奏でうる  
喜び語る  
生徒らの笑み

1						2					
日	月	火	水	木	金	日	月	火	水	木	金
	1	2	3	4	5	1	2	3			
7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9
14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15
21	22	23	24	25	26	16	17	18	19	20	21
28	29	30	31			22	23	24	25	26	27
英霊にこたえる会											

▲これは縮小版です。原寸は縦50×横35cmです。

「靖國カレンダー」を一家に一部掲げましょう

- 靖國神社への総理・閣僚の公式参拝を定着させましょう
- 「靖國神社は、我が国の戦歿者追悼の中心的施設である」  
国家、国民がこそって戦歿者英霊に感謝の誠を捧げましょう
- 英霊顕彰の国民運動の輪をひろげましょう



5-6月 御祭神40,800余柱・山形縣護國神社



7-8月 3万灯の提灯が彩る令和4年靖國神社  
みたままつり(毎年7月13日~16日)



11-12月 御祭神177,900余柱・沖縄縣護國神社

■申し込みの方法

郵便局備え付けの郵便振替用紙に次の事項を書き込み送金して下さい。

口座番号：00160-2-70431  
 口座名：英霊にこたえる会 靖國カレンダー業務室  
 通信欄：維持会費  口分  円  
 送料  円  
 合計  円

※ホームページの「カレンダー・DVDのご紹介」をご参照下さい。

■維持会費(500円/1口)口数と送料

部数は、1部(1口)から取り扱っておりますが、50部以上をと  
りまとめでいただける場合の送料は、本会の負担といたします。  
なお49部までの送料は、下記のとおりですので、ご負担願います。

**1部300円、2部350円、3・4部500円、5部700円、  
6~40部1,100円、41~49部1,400円**

■問い合わせ先

英霊にこたえる会 靖國カレンダー業務室  
 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-1-1 靖國神社遊就館内  
 電話：03-3264-4610 FAX: 03-3261-7415  
 E-mail: eirei@deluxe.ocn.ne.jp

